

究極の非常備蓄食

備蓄王 HOT!ぐるべん

- ① これを召し上がる被災者の方々に「心から喜んで頂き明日への活力が生まれる条件は何か、を追求する中から創り出されました。
- ② 「HOT!ぐるべん」は本来の非常備蓄食として非常用専門に開発された究極の非常備蓄食です。今までの非常用備蓄食は既存の保存食を非常用備蓄食として転用したものでした。この点、都市機能を壊滅させた阪神大震災のような非常事態を想定して作られておりませんので、非常用としては十分な機能を果せませんでした。「HOT!ぐるべん」はこれらの問題点をすべてクリアしております。
- ③ 以上のコンセプトで開発された「HOT!ぐるべん」は100%無駄がなく総合的見地から非常用備蓄食のコストを軽減しております。すなわち既存の非常用備蓄食は賞味期限が過ぎると廃棄処分になっているのが実情です。「HOT!ぐるべん」は廃棄する必要は全くありません。平時の非常用（非日常用）に広く活用できます。

非常備蓄食の定義

非常用備蓄食の定義として「交通を含めたライフラインが大きな被害を受け、著しく機能がマヒしている状態で提供できるぬくもりのある食事」をご提案します。便宜的に平成7年1月の阪神大震災直後のような事態といいかえることができます。「ぬくもりのある食事」とした理由は、不測の事態が発生した際に公共的な立場からは、健常者のみならず幼児、高齢者、さらには糖尿病やアレルギー疾患など軽度の疾病をかかえている「弱者対策」も重要な因子として視野に入れておかなければならないからです。非常用備蓄食の「もの」としての側面を見ると同時に、非常用備蓄食を食べる方の心情を考慮し、「ぬくもり」という言葉を入れていることがこの定義の特質です。被災者の心に訴え被災者の勇気と活力を生み出すことを願うからに他なりません。

究極の非常備蓄食とは

究極の非常用備蓄食の具体的条件は次のとおりです。

- ① 調理も、それに必要な燃料も全く不要であること。（電気、ガス、水のどれかが一つ必要であってもダメ）
- ② 簡便で手軽に食べられること。
- ③ 幼児、高齢者も含む誰でも食べられること。
- ④ 厳しい環境の下で、せめて食事位は「ホッ」と一息付けるものであるだけでなく、さらに明日への活力の源泉になるよう配慮されていること。
- ⑤ 災害は何時起こるか判りません。真冬の凍えた身体を暖めたり真夏の食中毒を気にするなど熱い食事が持つ意味は被災者の心には不可欠なものです。
- ⑥ 「ぬくもり」即ち「アツアツの食事」であること。
- ⑦ 食中毒をおこさないこと。阪神大震災は、たまたま1月という寒い時期に発生したので、トイレ等が不完全にもかかわらず疫病の発生はほとんどありませんでした。しかし、世界を見ると熱帯、亜熱帯、での洪水や、大雨、地震の時にはコレラ、赤痢が大量発生し、沢山の死者を出しています。我が国でも、もしも真夏に発生すれば例えば夕方配給のおにぎりを夜、食べただけで下痢をおこし、トイレが完備していない為大変な事態が起こるのではないかと心配されます。

株式会社 非常食研究所

中央研究所 〒593-8302 大阪府堺市西区北条町1丁28番19号

TEL 072-278-7801 FAX 072-278-5601

普及推進本部 〒220-0003 神奈川県横浜市西区楠町4-3-306

TEL 045-324-3441 FAX 045-324-3442

<http://www.hijyoshoku.com>